



2026年  
3月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者  
司祭 林 和 広

印刷所  
文明堂印刷所

## 塵に帰ることを憶えよ

司祭 ペテロ 中原 康 貴

この春から妻の実家がある愛媛を拠点に、「特任聖職」として新たな宣教を始めます。特任聖職とは教会外の仕事に就きながら、宣教に携わる聖職者のことです。現在、英国聖公会では叙任される聖職となりまして。



神戸教区は今のところ、他教区と比べれば聖職者は多い方ですが、このままでは10年後に半数近くに減ります。さらに、神戸教区の給与水準は全教区の中でも下から2番目ですが、教区財政はかなり厳しいところまで来ているようです。その上、聖公会では「聖職者のいない教会は発展しない」ということが、データでも明らかになっています。

最近では以前にも増して「教会を減らさなければ」という声をよく聞きますが、教会を閉鎖するとその地域での宣教の大きな足掛かりを失い、再び起こすには膨大なエネルギーが必要となります。だからこそ、教会の閉鎖を考える前に、まずは必死になって特任聖職を増やす努力を（主教任せにせず）教区一丸となつて取り組むべきだと思つてます。

両親が思いのほか早く癌で逝去し、「定年まで生きられるだろうか。今のままでいいのだろうか」と考えるようになりました。そして祈り続ける中で、「特任になる」という思いが抑えきれなくなりまして。この思いは聖職を志願する前に感じていたものに似ていて、抗しきれませんでした。

牧師を辞めて何をするのかとよく尋ねられます。考えていることはいくつもあります。が、今の私が一番したいことは「特任聖職」になることです。私が特任聖職になることで、皆さんの特任聖職や聖公会のミニストリーに対する理解が広がり、ご自身の信仰生活に新たな光を見出して頂ければと願っています。

そうは言っても、何か特別なことをしようというわけはありません。神戸で牧師をしていた頃、会衆席にはいつも退職された古本主教様がおられました。主教様は私がいらない主日には聖餐式を献げてくださいっていましたが、私がいるときは特別なことをすることはなく、会衆の一人として皆と共に教会生活を送っておられました。それでも、主教様の存在は私や教会員にとって大きな支えでした。牧師ではない司祭として牧師と会衆を周縁から支え、教会の発展に寄与したいと考えています。

もちろん、思い描いた通りにはならないかもしれないかもしれません。しかし上手くいかなくても、この生涯を終えてイエス様に迎えられるときに、「頑張りました」と言えるようチャレンジしておきたいのです。

(高知聖パウロ教会牧師)

# 長島愛生園をたずねて

ユニケ 東 よしの



かねてから訪ねてみたいと思っていたハンセン病療養所・長島愛生園を、12月20日に社会部の行事として訪問することができました。岡山県にあるという程度の知識しかありませんでしたが、瀬戸内海に架かるいくつもの橋を渡り、ようやく愛生園に到着しました。

まず、古くからの頑丈な建物である「長島愛生園歴史館」で、説明員の方に案内していただきながら展示を見学し、さまざまなお話を伺いま

した。特に印象に残ったのは、入居されている方々は一人ひとり背景も思いも異なり、簡単にひとまとめに語ることはできないという言葉でした。

また、「10人中9人が賛成し、1人が反対したとき、その1人の意見が正しいこともある」とという言葉も心に残りました。人権侵害が起きた歴史を思うと、重みのある指摘だと感じました。

その後、園内を見学しました。途中、美しい景色の中に鹿が姿を見せたり、昭和の時代がそのまま残っているような、どこか懐かしさを感じるのどかな雰囲気がありました。忘れられないのは、有形文化財にも指定されている「収容所」です。入所する前まずこの建物に収容され、現金などの没収、消毒風呂への入浴を経て、ここで社会と隔離されました。ずらりと並んだベッドで子どもから大人ま

でが2週間を過ごしたとのこと。食事も十分ではなかったでしょうし、自由を奪われた人々の絶望や嘆きが、今もなお建物に残っているように感じました。その後、納骨堂なども見学し、園内を回りま

した。昼食をはさんで、午後には隣接する光明園家族教会の牧師・渡辺真一様から、「ハンセン病を知って考える」という題でお話を伺いました。新型コロナウイルスの恐怖が広がったときに見られた社会の反応や構造は、ハンセン病の歴史と通じるものがあるという指摘がありました。「人の命を守る」と「人の尊厳を守る」とは必ずしも同じ

ではなく、時に難しい判断を迫られるという言葉が胸に残りました。また、らい予防法は1996年に廃止されましたが、なぜ国は誤りに気づいていながら、すぐに法律を改正しなかったのか疑問に感じました。「差別」の本質は、「正しさ」という認識の下に隠れているというお話もあり、深

く考えさせられました。

現地に行ってみて、現状に想像力を働かせ、問い続ける姿勢を持つことの大切さを改めて感じました。私自身の心の中に差別の芽が本当にな

## 阪神淡路大震災 31周年の報告

いのか、固定観念にとらわれていないかを常に意識しながら、平常心で全ての人を見ることが出来る力を与えてくださるよう、神にお祈りしています。(神戸聖ヨハネ教会信徒)

31年目の神戸は、昨年の盛り上がりの反動で静かな1・17になるかと思いましたが、土曜日ということ、震災の教訓を風化させないという思いなどが絡み、色々な場所での追悼慰霊行事がしつかり行われ、大勢の人々が参加していました。復興記念聖堂の名前を持つ神戸聖ヨハネ教会でも、17日は5時30分の発生時の祈りから、追悼記念聖餐式、追悼の点鐘、午後からの救急救命講座など行い、充実した一日になりました。追悼記念聖餐式では、八代主教様が、震災当時岡山からヨハネ教会に來られ、様々な活動を通じて、感じ思ったことを証しのように語ってくださいました。

午後からは、久しぶりに救急救命講座を開きました。救命の必要性や現在色々な場所に設置されているAEDについての解説を聞き、その後は3グループに分かれて、ダミー人形を用いて実習を行いました。参加者から、実際に家族やその他の人に何かがあっても、落ちていて対応できそうな気がする、とかAEDの使い方方を体験できてよかった、などの感想を頂きました。またインストラクターからも、皆さん前向きで楽しく実習できたと好評を頂きました。今後も定期的にこのような実習を行っていただければと思っています。

(神戸聖ヨハネ教会牧師

イサク 坪井 智)

# 「宣教150年記念事業委員会」

⑥

委員長 司祭 バルナバ 瀬山 会治

## 「ロゴマークが決定！」

宣教150周年記念事業委員会では、皆様から公募していた記念事業のシンボルとなるロゴマークを「灯台とコンパスローズ」のデザインに決定いたしました。この図案は米子聖ニコラス教会信徒の谷口友介さんによるもので、「灯台（神戸港第1防波堤東灯台がモチーフ）とコンパスローズ

を『150』という数字に当てはめ、主にあつて人々の道行きを照らし導く教会・教区」を表現しており、その素晴らしいコンセプトとデザインが高く評価されました。



デザインの意図：数字の「150」に灯台（神戸港第1防波堤東灯台がモチーフ）とコンパスローズを当て込み、主にあつて人々の道行きを照らし導く教会・教区を表現しました。（アイデアコメント）

「コンパスローズ (Compass Rose)」は、世界中に広がるアングリカン・コミュニオン（全世界の聖公会）を象徴する公式の紋章です。この羅針盤は、東西南北に広がる教会や、世界という大海原を航海している教会の姿を表しています。また、このデザインは、150年前にフォス、プランマー両司祭が英国から船で神戸港に到着したという歴史的な事実を思い起こさせるものでもあります。さらに、このロゴマークには、神様のみ光に照らされながら、宣教160周年に向けた「宣教の航海」へと力強く漕ぎ出す教

会・教区をイメージすることできます。今後は記念Tシャツなどに使用される予定ですが、互いに支え合

本事業は単なる一時的な祭典ではありません。教区全体が一つとなり、互いに支え合

## 世界の聖公会の動向

### 教会指導者らが、東アフリカの深刻化する干ばつに警鐘を鳴らす

司祭 ポール・トルハースト

ケニア北部の教会指導者たちは、アフリカの角（アフリカ大陸東部）で気候変動に起因する長引く干ばつが同地域を襲っているとして、緊急支援を求めている。マルサビツト教区のダニエル・カンピチャ・ワリオ主教は、例年降るはずの雨が降らず、人々は水や食料を失い、家畜のための牧草地も失っているとして、緊急の人道支援が必要だと述べた。

主教によれば、池を満たしたり植生を回復させたりするのに十分な雨さえ降っていない、励まし合いながら、これからの教会を盛り立てていくための絶好の機会です。この大きな節目に向けて、皆様の祈りと深いご理解、そして温かいご協力をお願い申し上げます。

を下回り、深刻な水不足、牧草地の枯渇、家畜の状態悪化を招いている。気候変動の影響は極めて深刻で、2024年には、全域でそのシーズン中に降るはずの雨の量が11月のわずか1日に集中して降り、そして翌2025年4月まで雨は一切降らなかった。

国際NGOのACTアライアンスは、ケニアとソマリアの干ばつに対し、各世帯が命を救うための食糧支援と生活必需品の提供を求めて緊急支援を呼びかけている。その目標には、食糧支援、水へのアクセス改善、食糧生産、資産復旧を通じて、地域社会における死亡と疾病の減少などが含まれている

(神戸MtSチャプレン)



鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

12月7日(日) オーガスチン 谷口友介 米子聖ニコラス教会

祝 堅 信

12月7日(日) オーガスチン 谷口友介 米子聖ニコラス教会

ご 逝 去

1月16日(月) ヤコブ 川本隆造 神戸聖ミカエル教会

1月17日(土) ニコラ 高橋信三

米子聖ニコラス教会

1月17日(土) ルツ 麻生郁世

神戸聖ヨハネ教会

1月30日(金) ペテロ 井川弘光

神戸聖ミカエル教会

2月1日(日)

島崎美智子 神戸聖ミカエル教会

4月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2026年4月2日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 司祭 瀬山 会治
説教 主教 八代 智

どなたでもいらしてください
\* 4月の記念逝去教役者

Table with 4 columns: Date, Role, Name, and Church. Lists departed clergy members for April 2026, including dates like 1日, 2日, 5日, etc., and names like 中村 四朗, 中西 義之, etc.

Advertisement for 'Online Prayer' (オンライン 祈りのつどい) by the West Japan Evangelical Cooperation Area. Includes details on dates (March 15 to June 18), times (19:00-), and participation information.

